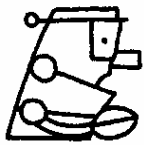


小 / 理科 / 6年 / 地球と宇宙 /
大地のしくみ / 理解シート

たい積岩って、どんな石なの



ちそう 地層の中で、そう 層すなになっている岩石は、たい積岩さ。ルーペで観察すると、丸い小石や砂などが混じっていることが多い。

地層がおし固められて、岩になったのが、たい積岩

地面の下を深くほってみると、ねん土、砂、小石、火山灰かざんばいなどが、さまざまな色の層になって重なっている地層が見られます。これらは、川の水が運んできたどしゃや、火山のふん火でふき飛ばされた火山灰などが、長い間に積み重なってできていったものです。

地層がたくさん積み重なるにつれて、重さでおし固められて、岩に変化していきます。こうしてできたのが、たい積岩です。

川が運んできたどしゃなどは、流れの速さがおそくなるにつれて、重たい小石、砂、細かいねん土などの順で、下にしずんでたまっていきます。そのため、地層の部分によって、小石混じりや、砂が多い部分などがあります。したがって、これらが固まってできた岩は、小石が混じったれき岩、砂の多い砂岩さがん、ねん土が多いでい岩などに分かれてきます。これらは、どれも、こわれやすいものです。

また、木の葉、貝、動物の骨ほねの化石などが入っていることが多いものです。

少し変わった、たい積岩もある

でい岩が、さらに強くおし固められてできた、ねん板岩やけつ岩は、かたくて、すずりなどに使われています。

火山灰などが固まったものは、ぎょう灰岩かいがんとよばれ、門柱などに使われる大谷石おおやいしなどがあります。

サンゴや貝がらなどが海底や水中に積もってできた、石灰岩もたい積岩です。